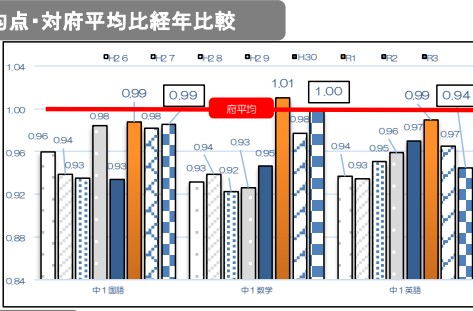


調査の概要

- 調査実施日 令和4年1月13日（木）
- 調査の目的 ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。  
◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。  
◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。  
◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容 ◆学力に関する調査 1年生（国語・数学・英語） 2年生（国語・社会・数学・理科・英語）  
※2年生の社会・理科は各校の指導計画に応じて「A問題」と「B問題」から選択します。本年度は、社会では全5校がA問題を選択、理科ではA問題を3校、B問題を2校が選択しました。  
学校別の平均点が特定されることから、2年生の理科については学力調査結果は記載していません。
- ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）全8問
- 調査参加者 1年生（府全体 59,730人 うち、本市参加者 582人） 2年生（府全体 58,773人 うち、本市参加者 604人）  
※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

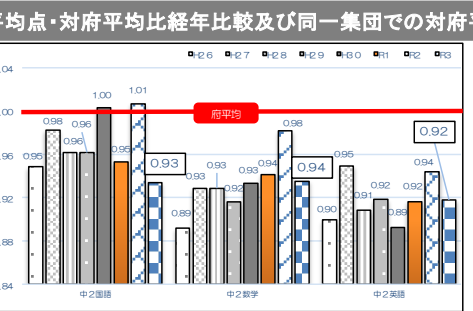
**1年生**

	国語	数学	英語
本市平均点	61.3	58.4	60.0
大阪府平均点	62.2	58.5	63.5
対府平均比	0.99	1.00	0.94



**2年生**

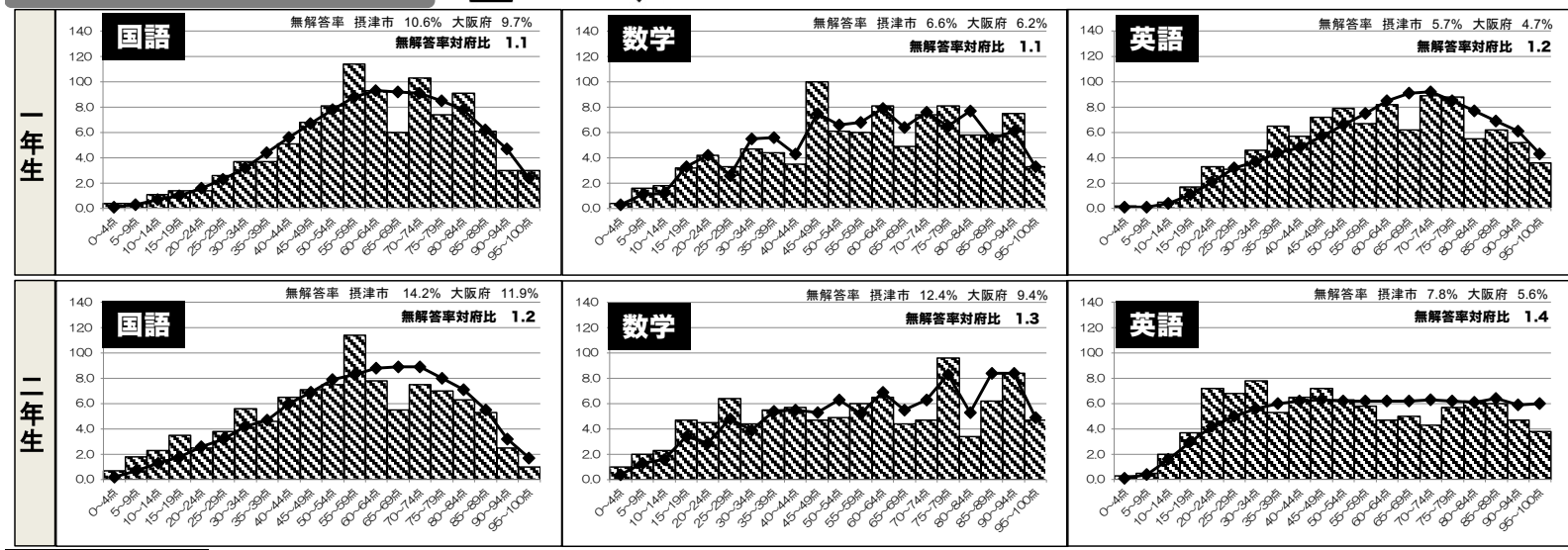
	国語	数学	英語	社会
本市平均点	54.9	56.2	53.7	51.9
大阪府平均点	58.8	60.1	58.5	52.2
対府平均比	0.93	0.94	0.92	0.99



対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。

理科B問題を選択した学校が2校だったため、学校別の平均点が特定されることから、理科の結果は記載していません。

教科別得点分布・無解答率



調査結果について

**【教科別平均点・対府平均比経年比較】**  
1年生の国語・数学は、昨年度の結果を上回り、過去2番目の結果となりました。しかしながら、英語については、昨年度と比べ0.03ポイント低下し、課題が見られます。  
2年生においては、数学の対府比が過去2番目の結果となりました。しかしながら、国語については、すべての問題で大阪府の平均正答率を下回るなど、国語と英語で課題の観点に課題が見られます。  
同一集団を経年で比較すると、全教科において1年時より対府比が、0.04~0.05ポイント低下し、課題が見られます。

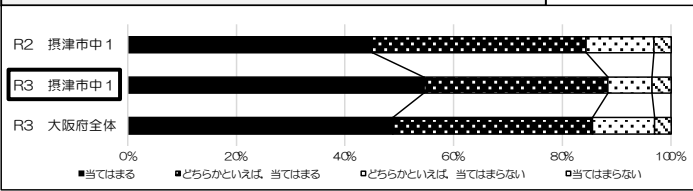
**【教科別得点分布・無解答率】**  
1・2年生の国語・数学において得点分布が府の傾向に近づいてきましたが、1・2年生の英語では、若干上位層が少なく、下位~中間層が多い傾向にあります。  
無解答率対府比は、1年生では1.1~1.2ポイント、2年生では1.2~1.4ポイントとなり、府と比べ問題を解くことを諦めてしまう生徒が多いという結果になりました。3教科共通して、知識・技能を問う内容において、2.0ポイントを超える問題が複数あり、課題が見られます。

今後に向けて

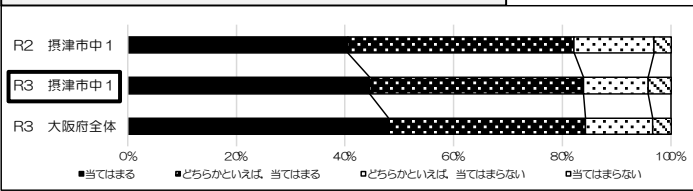
- 教育委員会では引き続き、各校の取組みへの適切な指導や助言を行い、成果を上げている学年・教科の好事例について市内全校で共有できるよう、以下のように支援していきます。
- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 生徒と学習計画や授業の目的、目標を共有することで、授業の見通しを持たせることや、話し合い活動、相互評価を組み込み、互いの良いところを認め合うことができる授業づくりを行います。
- 中学校区内の学校間で研究授業を相互に参加し合い、児童生徒につけたい力や学力向上の取組みを共有し、小中学校での9年間を見据えた学力向上の取組みを行います。
- 学習状況だけでなく、学校生活全般の主体的な行動に焦点を当て、当たり前のことを当たり前に取り組む児童生徒を認めることで自己肯定感や自己有用感を高める取組みを継続して行います。  
中学校2年生で正答率の対府比が下がる現状が続いていることから、中学校へのヒアリングを実施し、課題を分析したうえで、全中学校とともに、対策を検討してまいります。

中 1

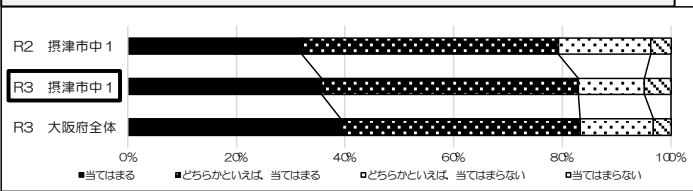
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



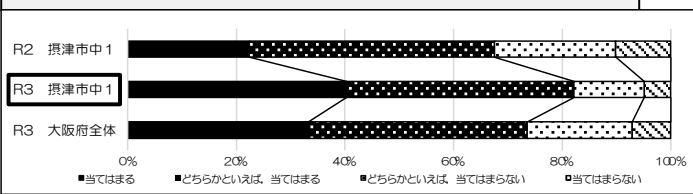
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



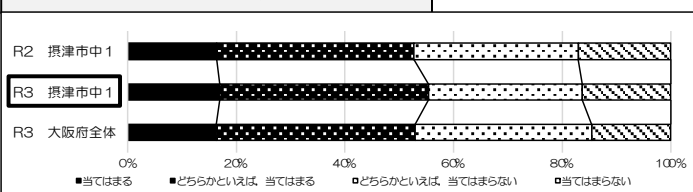
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。

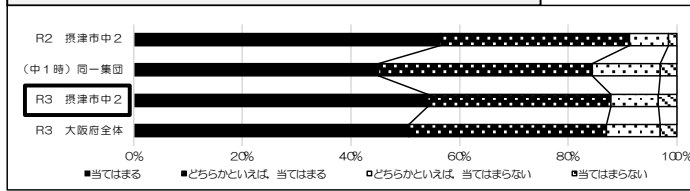


自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。

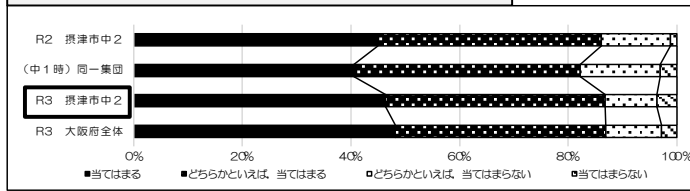


中 2

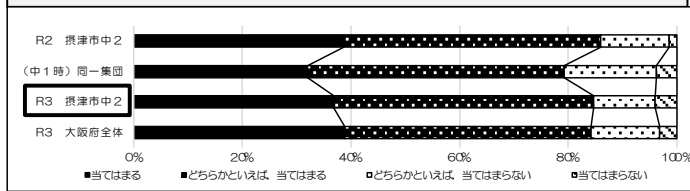
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



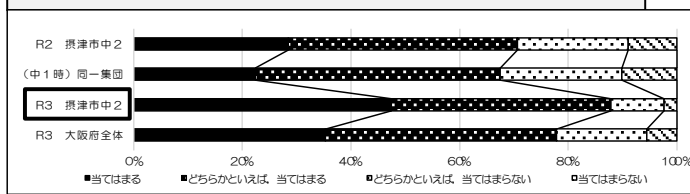
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



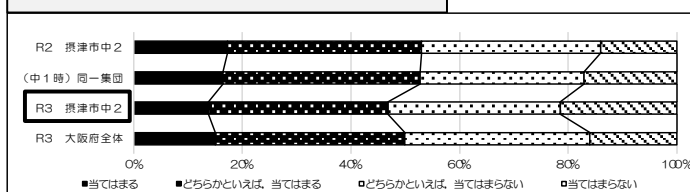
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



授業についての意識調査

【授業中の活動】

1年生は、記載の全項目で、肯定的回答の割合（※）が昨年度を上回りました。授業改善の取組みによって、協働的な学習に取り組む機会が増え、改善傾向にあると考えられます。

2年生は、多くの項目で肯定的回答の割合が、同一集団及び府平均ともに上回りましたが、家庭学習習慣に課題が残る結果となりました。

また、1・2年生ともに「インターネットで調べる活動がある」の項目で肯定的回答の割合が、昨年度より継続して、府平均に比べ、大きく上回り、自ら進んでわからないことを調べようとする意欲の向上が見られます。

アンケート結果からは、授業改善や学習意欲の向上が見られますが、各教科の正答率は低下する結果となりました。特に1年生では、「複数の情報から必要な情報を整理する」ことに、2年生では、1年生同様の課題に加え、**基礎的・基本的な学習内容の定着**に課題が見られました。授業でつけるべき力がついているかどうか正しく評価し、生徒の学習状況を把握することで、生徒が粘り強く取り組めるような**授業づくり**を行うことや複数の資料から結論を導き出す学習活動を取り入れる仕掛けなどの**授業改善**に併せて、**学習内容の定着**が課題であると捉えております。

【家庭学習習慣の確立】

中学校区の小中学校3校で連携し「家庭学習週間」の取組みなどを実施、継続してまいりましたが「自ら課題を見つけて、家で勉強している」の項目において、2年生では、肯定的回答の割合が、昨年度及び府平均ともに下回りました。

改めて、家庭学習習慣を確立させるため、デジタルドリルを積極的に活用するなど、定着に向けて取り組んでまいります。

引き続き、このような質問項目における生徒の肯定的回答結果だけでなく、正答率を意識した分析を進め、**つけるべき力**が身につくような学力向上の取組みについて研究し、市内全体の学力向上に努めます。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらか」としては「当てはまる」と回答した割合の合計を表します。

大阪府全体のチャレンジテスト結果とともに、「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習ツールが大阪府Webページに掲載されていますので、ご利用ください。  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>  
 ワークブック  
<http://www.c.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>  
 ことばのちから  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuyou.html>  
 中学生チャレンジテスト  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>  
 大阪府公立高等学校入学者選抜の問題  
[http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/h30\\_gakken.html](http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/h30_gakken.html)